

漢文 唐詩(二)

峨眉山月歌

李白



講師

渡辺恭子

理解を深めるために

■学習のねらい■

「唐詩」の二回目。「峨眉山月歌」を取り上げます。この詩は、唐の時代の大詩人「李白」の作品です。語句の意味や書かれた背景を学びながら詩の理解を深めましょう。また、「唐詩(近体詩)のきまり」についても学習します。

* * *

「峨眉山月歌」の内容を理解する

李白は若いころから故郷にある「峨眉山」に親しみ、この山を愛していました。「峨眉山月歌」は、住み慣れた故郷を離れて旅に出た、二十四〜六歳ごろの作品だといわれています。青年李白は、見聞を広め、知識を増やし、自分の人生を切り開こうと、希望に燃えていたことでしょう。そんな李白の気持ちを思いながら、詩を味わってみましょう。

ここに出てくる重要語句の意味を理解しましょう。

■語句の意味

- ・峨眉山…………… 李白の故郷にある山。月の名所。向き合う二つの峰の形が美しい眉に似ていることから、その名がつけられた
- ・半輪…………… 半月の月
- ・影…………… 月影。月の光
- ・平羌江…………… 峨眉山の麓を流れる川の名
- ・清溪…………… 船着き場の名前
- ・三峡…………… 三つの峡谷。川下りの難所
- ・清溪…………… 地名。清溪から四〇〇キロ下流にある

作者「李白」と「峨眉山月歌」の作られた背景について

李白の魅力は、常識の枠にとらわれない、自由奔放さだと言われています。いわゆる天才肌の詩人なのです。そのうえ、大の酒好きで、それだけに役人としてはうまくいかず、放浪続きの人生を送りました。この詩は、青年李白が、故郷の峨眉山にかかる名月に心を残しながら、希望と不安を胸に長江を下る船旅を詠じ

たものです。次の二点について考えましょう。

①「君」とは、何を指しているのか

直接的には、「月」を指します。しかし、「月」は、美人の喩えたとでもありますので、故郷に残してきた女友達を指すとも考えられます。

②五つの地名があるが、李白はどの順序で通過したか

峨眉山↓平羌江↓清溪↓清溪↓三峡。

二十八文字中、十二文字が地名。それが情景を表現したり、雰囲気醸し出したりするのに大きな役割を果たしています。天才李白の詩のうまさを感じられる作品です。

「唐詩（近体詩）のきまり」について

漢詩が最も盛んになった唐代には、より良い詩を作るために「漢詩作成のきまり」が整備されました。そのきまりにしたがって作られた詩を「近体詩」と呼びます。「峨眉山月歌」の「形式」と「韻」について学習しましょう。

●詩の形式……「七言絶句」

●韻……「秋・流・州」。「七言詩」では「一句目末」＋「偶数句末」に韻を踏むおっいんきまりになっています。「韻を踏む」ことを「押韻」ともいいます。

唐詩〈二〉

峨眉^が山^び月^ル歌

李白^り
白^{はく}

峨眉^が山^び月^ル半^ル輪^ル秋^ル
影^ハ入^リ平^{へい}羌^{きやう}江^江水^水流^ル
夜^夜發^シ清^清溪^溪向^カ三^{さん}峽^{けふ}
思^ヘ君^ヲ不^ズ見^エ下^ル渝^ゆ州^州

『唐詩選』

【現代語訳】……………

- ① 峨眉山のあたりに、秋の半月の月がでて、
- ② その月の光が、平羌江の水面に映って、映った月は、(川の
水とともに) 流れている。
- ③ 夜、(私は) 清溪を出発して(舟ではるか下流の) 三峽
に向かっていく。
- ④ (やがて山がせまり、月はいつしかかくれ)、あの月を見
たいと思ったが、ついに見る事ができず、(心を残
したまま) 渝州に下っていく。